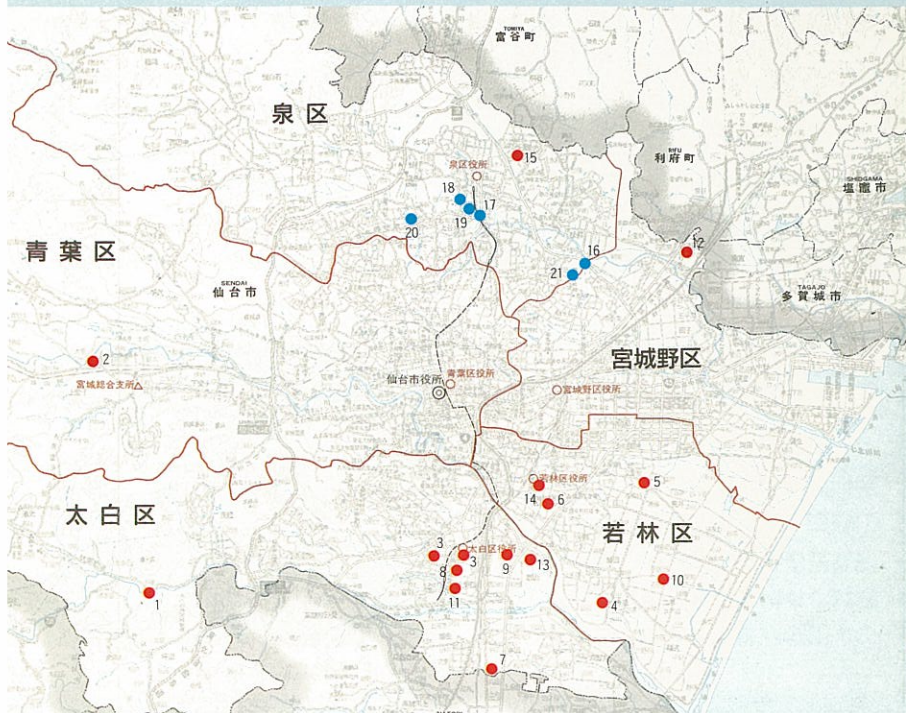


第18回文化財展

— 発掘この一年 —

今年度調査した遺跡と泉区の主な遺跡



泉区内の主な遺跡

泉区は仙台市の北部に位置し、西には泉ヶ岳があり、中央に七北田川が流れています。面積は約145km²で、最近副都心として急速に発展してきました。泉区内には、市指定史跡の松森焔硝蔵跡や、多量の縄文土器が出土し注目された高柳遺跡などをはじめとして、集落跡、寺院跡、城館跡などが84カ所もあります。ここでは、発掘調査が行われた代表的な遺跡をいくつか紹介しましょう。



たかやなぎ いさぎ
高柳遺跡 (泉区七北田)

七北田川右岸の河岸段丘上にある遺跡です。平成元年の調査で、縄文時代中期（今からおよそ4000～5000年前）の土器や石器が多量に発見されました。土偶や土笛も発見されています。他に江戸時代の屋敷墓も見つかっています。

▲縄文土器が出土したようす

あこうづ いさぎ
赤生津遺跡 (泉区七北田)

七北田川左岸の河岸段丘上にある遺跡です。昭和63年の調査で、灰白色火山灰に埋没した平安時代の水田跡が発見されたほか、縄文時代、弥生時代の土器なども発見されています。



▲平安時代の水田跡

まもり えんしょうくらあと
松森焔硝蔵跡 (泉区南光台東)

仙台藩焔硝蔵（火薬貯蔵庫）の1つで、当時は3基ありましたが、現在1基だけ残っています。昭和57年の調査では5m×10mの蔵跡とそれを囲む排水溝、石敷の通路、爆発孔が発見されました。



▲調査区全景



日本最古の扉板（中在家南遺跡）

| 今年度調査した遺跡 | | 泉区の主な遺跡 | |
|-----------|---------|---------|--------|
| No | 遺跡名 | No | 遺跡名 |
| 1 | 川添東遺跡 | 9 | 郡山遺跡 |
| 2 | 北原街道B遺跡 | 10 | 下飯田遺跡 |
| 3 | 富沢遺跡 | 11 | 王ノ壇遺跡 |
| 4 | 高田B遺跡 | 12 | 洞ノ口遺跡 |
| 5 | 中在家南遺跡 | 13 | 北目城跡 |
| 6 | 南小泉遺跡 | 14 | 養種園遺跡 |
| 7 | 中田南遺跡 | 15 | 洞雲寺 |
| 8 | 下ノ内浦遺跡 | | |
| | | 16 | 住吉遺跡 |
| | | 17 | 高柳遺跡 |
| | | 18 | 沼遺跡 |
| | | 19 | 赤生津遺跡 |
| | | 20 | 長命館跡 |
| | | 21 | 松森焔硝蔵跡 |

普及活動の記録

祖先が残してくれた文化財は、私たちに人間としての生き方、未来への在り方を示し、多くの教訓を語りかけてくれます。文化財課ではこうした文化財を活用し、今年度もさまざまな行事を実施しました。その中から主なものを紹介しましょう。



▲夏休み親子縄文体験（7、8月）



▲第17回文化財展（11月）



▲北目城跡の現地説明会（12月）

今年度の調査成果



川添東遺跡 (太白区茂庭)

名取川中流の左岸にある遺跡です。今年度の調査で、縄文時代の竪穴住居跡7軒、多数のおとし穴、溝跡などの遺構と、縄文土器、石器、さらに縄文時代よりも古い旧石器時代の石器も見つかりました。

▲縄文時代の竪穴住居跡



南小泉遺跡 (若林区南小泉)

今年度は2ヶ所で調査を実施し、古墳時代から江戸時代にかけての遺構、遺物を発見しました。なかでも、古墳時代の竪穴住居跡を区画すると考えられる幅7mの大溝からは多量の土器が出土し、貴重な発見となりました。

▲平安時代の竪穴住居跡



▲井戸跡の断面

王ノ壇遺跡 (太白区大野田)

鎌倉時代の武士の屋敷跡が発見されました。屋敷は一辺約50mの方形で、大溝や塀で囲まれています。内部には多くの建物や井戸があります。中国製の陶磁器や石のカイロ、馬の鞍下につける鹿角製品などが出土しました。

北原街道B遺跡 (青葉区愛子)

広瀬川右岸の河岸段丘上にある縄文時代の遺跡です。今回の調査では、約5500年前の土器や石器が出土しています。なかでも石製の「球状耳飾り」3点は、装身具の歴史を知るうえで、たいへん貴重な資料です。



▲発掘調査風景

中田南遺跡 (太白区中田南)

古墳時代の終わりから江戸時代までの長い間にわたる遺跡です。なかでも、奈良時代前半の竪穴住居跡は多数見つかり、遺跡全体では100軒をこす大集落であったことが予想されます。また大型の掘立柱建物跡や中世の堀で囲まれた大きな屋敷跡も見つかりました。



▲平安時代の掘立柱建物跡

洞ノ口遺跡 (宮城野区岩切)

七北田川中流左岸の自然堤防と後背湿地に広がる遺跡です。今年度の調査の結果、自然堤防の部分からは中世の掘立柱建物跡や井戸跡、溝跡等が発見され、後背湿地からは平安～江戸時代の水田跡が重なって見つかりました。



▲江戸時代の水田跡



富沢遺跡 (太白区長町南)

弥生時代から現代までの水田跡が何枚も重なって見つかったところです。今年も各時代の水田跡が見つかり、土器や木製農具などが出土しました。

▲水田跡を確認したところ



▲竪穴住居跡のかまど

下ノ内浦遺跡 (太白区富沢)

地下鉄富沢駅の北側に広がる遺跡です。昨年を引き続いて行った今年の調査では、古墳時代以降の畑の跡が見つかりました。また、その下層からは古墳時代の竪穴住居跡や土器が見つかりました。



▲内堀の曲り角部分

北目城跡 (太白区郡山)

室町～江戸時代初期にかけて粟野氏や伊達政宗が居住した城の跡です。今回の調査では、内堀と外堀を検出し、その中から短刀・天目茶碗・漆器・下駄・古銭などが発見されました。北目城跡の付近には、室町時代の板碑や江戸時代の道標なども多く見られます。

高田B遺跡 (若林区日辺)

今年度は、江戸時代の水田跡、室町時代の水田跡・建物跡・道路跡、弥生時代の生活用具の捨て場や河川跡などがみつかりました。河川跡からは、古墳時代の建築材や、弥生時代の土器・木製農具などが大量に出土しました。



▲弥生時代の鍬が出土したようす

郡山遺跡 (太白区郡山)

飛鳥～奈良時代初めの役所(官衙)跡で、古いもの(I期官衙)と新しいもの(II期官衙)とに分けられます。今年度の調査では、I期官衙の南を囲む塀の跡と、II期官衙の掘立柱建物跡を見つけました。



▲調査区全景

養種園遺跡 (若林区南小泉)

この遺跡は古墳時代から江戸時代にかけて営まれた遺跡です。今年度の調査では江戸時代の屋敷の堀跡(幅約21m、深さ約3m)、中世の鍛冶工房跡等を検出し、多くの陶磁器、槍先、伊達家の家紋入りの漆器等が出土しました。



▲江戸時代の屋敷の堀跡



中在家南遺跡 (若林区荒井)

弥生時代から中世までかかって埋没した河川跡を調査したところ、弥生時代の日本最古の扉板をはじめ、各時代の木製品が見つかりました。また近くの自然堤防上では、方形の溝をめぐらした古墳時代の墓も見つかりました。

▲発掘調査風景



▲調査区全景

下飯田遺跡 (若林区下飯田)

仙台平野の東部にあり、海岸にほど近い低地に立地しています。今回の調査では、貝塚をともしなう古代(7世紀頃)の村の跡や、鎌倉時代頃の武士の屋敷跡が見つかりました。市内で貝塚が発見されたのはこれが初めてです。



▲開山堂跡の調査区全景

洞雲寺 (泉区山ノ寺)

室町時代の銅鐘を所有する名刹として知られています。江戸時代に建てられ、昭和18年に焼失した開山堂跡の今回の調査では、建物の礎石と石段を発見しました。礎石は全部で122個あり、三方に縁側があった建物であることが分かりました。